

令和元年度実施 大網白里市住民協働事業 成果報告書

事業名	ひきこもり当事者及び家族の支援	
事業主体	実施団体	市（関係課）
	特定非営利活動法人リンク	社会福祉課・高齢者支援課・子育て支援課・健康増進課

事業費	予算額	決算見込額	市補助金額（交付決定額）
	264,000 円	264,928 円	264,000 円

【 ①目的・課題について 】

次の事項がわかるように、事業概要を記入してください。

○どのような地域課題（行政課題）、住民ニーズに対して、

○いつ ○どこで ○誰を対象に ○どんなことを ○どのような方法で実施したか。

近年、「8050問題」という社会問題としても取り立たされている問題の原因の一つとしてひきこもりの課題がある。大網白里市において、義務教育課程においては相談、支援機関は存在するが、義務教育課程修了後の支援体制は確立されておらず、ひきこもりの家族を持つ家庭・当事者が社会的に孤立していってしまう傾向がある。本協働事業はひきこもりの課題に対し、当事者、ご家族を社会の一員として、共に支え合う仕組みづくりの構築を目指し、1年目としてひきこもりに関する地域課題としての問題提起と意識の醸成、活動の周知を図った。

具体的には年各2回（6月、2月）の市民公開講座、ひきこもり家族の集い（7月、11月）、ひきこもり当事者の集い（9月、1月）を行った。

市民公開講座については大網白里市保健文化センターにて、市民、当事者、家族、関係機関（それぞれ大網白里市外も含む）を対象に実施。6月は千葉県精神保健福祉センターの相談指導課長を招き、千葉県ひきこもり対策推進事業について説明をしていただいた。また、ひきこもり支援の先駆者の実践報告として「8050問題をひもとく」と題し、東京都就労訓練アドバイザーの阿部達明氏を招き、講演をいただいた。2月はひきこもりの背景にある発達障害に着目し、「発達障害とひきこもり～就労支援の現場から～」と題し、医療法人学術会 OMHS テクニカルアドバイザーの後藤智行氏を招きお話をいただいた。2回の市民公開講座の際、当事者、家族を対象に個別相談会も実施している。

ひきこもり家族の集いについては、大網白里市生活相談センターリンクサポート事務所にて、家族を対象とし、同じ悩みを抱える者同士悩みを共有できる場を設けた。7月は主として悩みの共有をできる場があること、家族だけで抱える問題でなく地域で支え合っていく必要があることを話し合った。11月は7月に参加した家族の方が、初参加の家族の相談を聞くことに重点を置き、今後の家族会形成における意識の醸成としての種まきを行

った。

ひきこもり当事者の集いについては、大網白里市生活相談センターリンクサポート事務所にて、当事者を対象とし、同じ悩みを抱えるもの同士がつどい、語らい、ホッとできる時間と空間を共有することを目的に実施した。9月は調理実習としカレーを作り、参加者で語らいながら食事をした。1月は事務所で9月からの互いの生活について振り返り後、9月のアンケート結果から希望のあった初詣（千葉厄除け不動尊）を実施した。

【 ②企画・効果 】

次の事項がわかるように、成果を記入してください。

○事業の内容が具体的で目標達成に向けて適切だったか。

○協働で行うことでどのような効果が得られたか。

○住民の満足度は得られたか。 ○他の団体との連携や協力により効果をあげたか。

○事業を行うことで、市民や地域、他の団体への波及効果（広がり）はあったか。

初年度は、「ひきこもり」に関する地域課題の問題提起と活動の周知・実施を目的としていた。手探りの中での実施ではあったが、年二回の市民公開講座の開催にあたり、区長回覧や市内小中学校でチラシを配布してもらったことで広く周知を図ったこと。初回の市民公開講座ではNHKでも取り上げられていた方を講師に招けたことで、関心も高く、多くの参加者に参加してもらえたこともあり、概ね適切であったように思われる。家族の集いには公開講座後の個別相談会に相談された家族の参加が中心となった。同じ悩みを抱える者同士が集まったことで、その存在に気づき、共感する中で孤立化の解消に繋がっている。当事者の集いについては、大網白里市生活相談センターリンクサポートの継続相談者の参加が殆どであったが、自宅以外の社会との接点の場として、一歩踏み出すきっかけになっている。

市と協働で実施できたことで、住民の方々に安心して参加してもらえたことや講師の方々にもスムーズにお越しにいただけた。区長回覧や小中学校を利用して広く周知を図ることもできた。会場の予約や会場設営等細かなところを含め事業をより円滑に実施することができた。市社会福祉協議会も後援してくださり、周知についてもホームページ上でご協力いただいた。また、ひきこもりの相談について、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所等関係機関から相談も繋がるようになり、民生委員や民間の居宅介護支援事業所等、今までひきこもりの存在には気づいていたが、相談先が分からなかった関係機関からの相談も繋がるようになって来ている。

市民公開講座、家族の集い、当事者の集い開催後のアンケート結果からは、「なすすべなく困っていたが、一筋の光が見えた」（当事者家族）、「相談できる場所、気にかけてくれる場所があり心強く思った」（当事者）、「柔軟な考えをしなければと思いながらも自身の価値観を変えられず、寝むれなくなったこともあった。考えを改め、本人の話をよく聞いてみようと思え、前向きになれた」（関係機関）、「地元大網白里市で同じ立場の方との交流が出来るようになる日が来た。不登校の時から「親の会」に在籍していた経緯もあり、

物理的にも心情的にも親近感が湧いた」(当事者家族)「またやってほしい。次回は外に出たい」(当事者)との声が多数聞かれたこともあり、概ね満足は得られたように思われる。一方、「ひきこもり当事者の集い」という名称について、ストレートな文言から抵抗感が強いといった意見もあった。今年度は広く分かりやすく周知を図る目的もあったことから、来年度については名称を柔らかい文言に修正していく必要を感じている。

協働による効果について、自己評価 (☑) をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市 (関係課)
<p><input checked="" type="checkbox"/> 効果があった <input type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。 (理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の方々に安心して参加してもらうことができ、講師の方々にもスムーズにお越しただけた。 ・区長回覧や小中学校を利用して広く周知を図ることもでき、会場の予約や会場設営等細かなところを含め事業をより円滑に実施することができた。 ・ひきこもりの現状や実態を把握するだけでなく、共に支援、介入することができた。 	<p><input checked="" type="checkbox"/> 効果があった <input type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。 (理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開講座の開催について区長回覧や広報による周知を行った後、ひきこもりに関する問い合わせが多く寄せられた。また、公開講座へ参加した市民から、相談できる場所や機関があることを認識し、相談してみたいという声を複数確認していることから、引きこもりに対する意識の醸成や相談機関の周知効果が見られる。 ・相談等を通じて、困りごとを抱えた引きこもり当事者や家族の姿が少しずつ見えてきている。

【 ③実行力 】

団体と市の役割分担について、実際に担った役割を記入してください。

団体の役割	市 (関係課) の役割
<ul style="list-style-type: none"> ・市民公開講座の企画、運営、実施 ・家族の集い、当事者の集いの企画、運営、実施 ・周知 (ポスター掲示、チラシ配布) ・個別の相談対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・区長回覧、広報による周知。 ・市民からの問い合わせや相談を社会福祉課で受け付けし、リンクへ情報提供を行った。 ・区長回覧や講演会等の開催において、問い合わせ先に市社会福祉課を含めたことで、見ず知らずの相談機関へ相談するこ

	とを不安に感じる市民に対し安心感を与える効果があった。
--	-----------------------------

また、その役割分担は適正であったかについて、自己評価 (☑) をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市 (関係課)
<input type="checkbox"/> 適正であった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適正であった <input type="checkbox"/> あまり適正でなかった (理由) ・ひきこもりの支援についての民間のノウハウを生かしながら企画、運営、実施については柔軟に行うことができ、周知等については行政の住民や関係各課との幅広いパイプを生かし広く周知を図ることができた。市担当者と打ち合わせながら実施できたことで、民間、行政の双方の視点を持ち寄ることができた。	<input type="checkbox"/> 適正であった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適正であった <input type="checkbox"/> あまり適正でなかった (理由) ・ひきこもり当事者及び家族から市に対して相談があった際、何も聞かずにリンクへ引き継ぐのではなく、一端、相談者における困りごとを聞き取った上で引き継ぐ作業を行った。ただし、専門的な知識等を持った職員が対応していないことから、寄り添い方や困りごとの抽出の仕方が適切であったかを判断することは難しい。しかしながら、市の窓口を訪れた繊細な悩み事を抱えた当事者や家族の声を、リンクという「安心して相談できる窓口」へ繋いでいくという意識は、本年度の市民協働事業を通じて高めることができた。

事業スケジュールについて、当初の計画と実際に実施した内容 (実績) を詳細に記入してください。

<当所の計画>

月	事業名	内 容	備 考
6	講演会 テーマ:ひきこもり支援の実践報告	・ひきこもり支援の先駆者からの実践報告 「8050問題をひもとく」 講師:東京都就労訓練アドバイザー 阿部 達明氏 ・ひきこもり対策推進事業について説明 千葉県ひきこもり地域支援センター 場所:保健文化センター3階 大ホール	広報周知 ・市広報掲載 (依頼は前年度中) と行政窓口でのご案内。 ・相談支援機関及び医療機関への周

		参加対象者：一般市民及び相談支援に関わるもの・保健医療関係者等（約100名）	知。
7	家族の集い（第1回）	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ悩みを抱える家族が集い、お互いの悩みを共有する。 ・講師を招いたワークショップ形式 場所：大網白里市生活相談センターリンクサポート事務所 参加対象者：ひきこもりの家族を抱える方・支援者等（約10名）	広報周知 <ul style="list-style-type: none"> ・市広報掲載と行政窓口でのご案内。 ・医療機関及び相談支援機関への周知。 *年間予定の周知 講師派遣：相談支援機関の精神保健福祉士等
9	当事者の集い（第1回）	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ悩みを抱えるもの同士がつどい、語り、ホッとできる時間と空間を共有する。 ・講師を招いたアクティビティ（調理実習等） 場所：大網白里市生活相談センターリンクサポート事務所 参加対象者：ひきこもりの当事者・支援者等（約10名）	広報周知 <ul style="list-style-type: none"> ・市広報掲載と行政窓口でのご案内。 ・医療機関及び相談支援機関への周知。 *年間予定の周知 講師派遣：栄養士等
11	家族の集い（第2回）	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ悩みを抱える家族が集い、お互いの悩みを共有する。 場所：大網白里市生活相談センターリンクサポート事務所 参加対象者：ひきこもりの家族を抱える方・支援者等（約10名）	広報周知 <ul style="list-style-type: none"> ・市広報掲載と行政窓口でのご案内。 ・医療機関及び相談支援機関への周知。
翌年1	当事者の集い（第2回）	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ悩みを抱えるもの同士がつどい、語り、ホッとできる時間と空間を共有する。 ・社会文化活動等（書き初め等の創作活動） 場所：大網白里市生活相談センターリンクサポート事務所 参加対象者：ひきこもりの当事者・支援者等（約10名）	広報周知 <ul style="list-style-type: none"> ・市広報掲載と行政窓口でのご案内。 ・医療機関及び相談支援機関への周知。
2	講演・講義 テーマ：ひきこもり～その背景にあるもの～	<ul style="list-style-type: none"> ・親亡き後、経済的な支援・社会的な支援をどう受けることができるかという共通するであろう課題について、家族・支援者・専門家を交えて行う。 講師：千葉県精神保健福祉センター	講師派遣：ひきこもり支援のエキスパート

		医師：石川 真紀 場所：大網白里市内公共施設 参加対象者：これまで参加した家族等及び 相談支援に関わるもの・保健医療関係者等 (約100名)	
--	--	--	--

<実績>

月	事業名	内 容	備 考
6/27	講演会 テーマ：ひきこもり 支援の実践報告	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり支援の先駆者からの実践報告「8050問題をひもとく」 講師：東京都就労訓練アドバイザー 阿部 達明氏 ・千葉県ひきこもり対策推進事業について 千葉県精神保健福祉センター 相談課長 今津氏 ・生活困窮者自立支援制度とひきこもり支援 大網白里市生活相談センターリンクサポート 場所：保健文化センター3階 大ホール 参加者：一般市民、当事者、当事者家族及び 相談支援に関わる者・保健医療 関係者等 申込：80名 参加者：75名 <ul style="list-style-type: none"> ・講演会后、個別相談会実施 8名予約。当日3名面談。後日面談4名。 当日スタッフ：3名 	広報周知 <ul style="list-style-type: none"> ・市広報掲載 (依頼は前年度中)と行政窓口 でのご案内。区 長回覧による案 内。各公民館へ チラシ配布。 ・相談支援機関 及び医療機関へ の周知。
7/23	家族の集い(第1回)	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ悩みを抱える家族が集い、お互いの 悩みを共有する。 ・スタッフによるワークショップ形式 場所：大網白里市生活相談センターリンク サポート事務所 参加者：当事者家族(4家族5名) (申込み9名。4名欠席) ファシリテーター：2名	広報周知 <ul style="list-style-type: none"> ・市広報掲載と 行政窓口でのご 案内。各公民館 へチラシ配布。 *年間予定の周 知
9/26	当事者の集い(第1 回)	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ悩みを抱えるもの同士がつどい、語 らい、ホッとできる時間と空間を共有す る。 ・調理実習：カレー作り 	広報周知 <ul style="list-style-type: none"> ・市広報掲載と 行政窓口でのご 案内。各公民館

		<p>場所：大網白里市生活相談センターリンク サポート事務所</p> <p>参加者：ひきこもりの当事者（5名） ファシリテーター：2名</p>	<p>へチラシ配布。 *年間予定の周知</p>
11/19	家族の集い（第2回）	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ悩みを抱える家族が集い、お互いの悩みを共有する。 ・スタッフによるワークショップ形式（前回の参加者が初参加の参加者の話を聞き、参加者相互に相談できる土壌生成） <p>場所：大網白里市生活相談センターリンク サポート事務所</p> <p>参加者：当事者家族（3名） ファシリテーター：2名 アドバイザー：2名</p>	<p>広報周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市広報掲載と行政窓口でのご案内。社会福祉協議会のHPによる案内。各公民館へチラシ配布。
翌年 1/28	当事者の集い（第2回）	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ悩みを抱えるもの同士がつどい、語り、ホッとできる時間と空間を共有する。 ・社会文化活動等：初詣 <p>場所：大網白里市生活相談センターリンク サポート事務所（集合、開会、前回の集いからの振り返り）→千葉厄除け不動尊→事務所（振り返りと今後の展望、意識付け）</p> <p>参加者：ひきこもりの当事者（3名） （申込み4名。1名欠席） ファシリテーター：2名 アドバイザー：1名</p>	<p>広報周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市広報掲載と行政窓口でのご案内。市社会福祉協議会のHPによる案内。各公民館へチラシ配布。
2/4	講演会 テーマ：発達障害とひきこもり～就労支援の現場から～	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもりの背景にある一つの要因である発達障害に着目し、就労支援の現場から発達障害の特性、支援について学ぶ。 <p>講師：後藤 智行氏</p> <p>場所：保健文化センター3階 大ホール</p> <p>参加者：これまで参加した家族等及び相談支援に関わるもの・保健医療関係者等</p> <p>申込：65名 参加者：56名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会后、個別相談会実施 3名予約。当日3名面談。 	<p>広報周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市広報掲載と行政窓口でのご案内。区長回覧による案内。市内小中学校生徒へのチラシ配布。社会福祉協議会のHPによる案内。各公民館へチラシ配布。

			布。相談支援機関及び医療機関への周知。
--	--	--	---------------------

また、当初の計画と実績をみて、事業スケジュールの組み立ては妥当であったかについて、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体
<input checked="" type="checkbox"/> 適正であった <input type="checkbox"/> 概ね適正であった <input type="checkbox"/> あまり適正でなかった (理由) 1回目の市民公開講座にて広く周知を図り、「ひきこもり」という地域課題の問題提起と、市民啓発を図った。講演会後の個別相談会を通じ、その参加者が家族の集いに参加しやすい形を設け、今後の家族会形成の土壌となるように組み立てを行った。家族の集い、当事者の集いを実施することで、当事者家族、当事者がそれぞれ安心して相談できる場があることを周知。参加者からの実感は得られた。2回目の家族の会の参加人数が少ないことは懸念されるが、前回参加者の欠席理由は把握できており、一定の効果があったように思われる。一方、当事者集いについては、広報等からの参加者はなく、周知の仕方に工夫が必要と感じている。但し、目にしてはいるが参加まで一歩踏み出せない方も多く想定されるため、継続した機会の提供も必要と感じる。2回目の市民公開講座はひきこもりの要因の一つの背景である発達障害に着目し、課題を深めながら、就労という一つの社会参加というゴールを示すことで今後の展望を示した。

【 ④継続性 】

住民協働事業により「人・もの・情報・スキル」等、団体の活動基盤が強化した点や活性化した点について記入してください。

(例：〇〇を購入したことにより〇〇のスキルが上がり、効率的に活動できた。〇〇活動により団体の認知度が高まり、参加者が増えるとともに会員も増えた。)

また、2年目、3年目の事業については、1年前、2年前と比べて、事業を継続したことで得られた効果も記入してください。

- ・広報誌や区長回覧等広く周知を図った為、住民や市役所各課、相談支援機関等に対し認知度が高まった。
- ・ひきこもりの相談者（家族・当事者）に対し、案内できる社会資源の場が生まれた。

また、その結果について、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体
<p><input type="checkbox"/> 強化、活性化した</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 概ね強化、活性化した</p> <p><input type="checkbox"/> あまり強化、活性化しなかった</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none">・認知度の高まりから、ひきこもりの相談が増えた。一方、地域の支援機関との連携については相談を受けることがメインになってしまい、協働で支援していく形を形成することでより効果が上がると思われる。・ひきこもり相談者に対し案内できる社会資源が生まれた。・広報だけでなく、企画等市担当者と多く打ち合わせを実施できたことで、市との連携が図れ、他事業（中核地域生活支援センター、生活困窮者自立支援事業）においても連携が強化された。

【 ⑤必要性 】

団体と市が協働することで、行政サービスの充実・効率化等につながったか、協働による効果について記入してください。また、協働事業として実施し、良かった点や問題点等について記入してください。

団 体
<p>○行政サービスの充実と効率化等</p> <ul style="list-style-type: none">・本事業は、単に引きこもりという現象だけを問題としているのではなく、健康や心身機能、活動や参加の状況、環境など、様々な問題を抱えた相談者を対象としていることから、生活困窮者自立相談支援事業等のノウハウを持つリンクが対応することは、行政サービスの充実化及び効率化につながっている。 <p>○効果及び良かった点</p> <ul style="list-style-type: none">・区長回覧や広報による周知を行ったことで、ひきこもりという社会現象に対する意識の醸成が市域に広く進んだ。・相談機関を周知する効果があった。・市民公開講座や相談会等を通じて、対象者の顔が少しずつ見えるようになった。 <p>○問題点</p> <ul style="list-style-type: none">・本事業を実施したことで、本市の生活困窮者自立相談支援事業の受注者であるリンクの相談件数が大幅に増加し、当該委託業務への支障が懸念される事態が一時的に発生した。既存事業である生活困窮者自立相談支援事業への影響を十分に考慮する必要がある。・将来的に期待される家族会設置に向け、キーパーソンの発掘に関する現在の状況や今後の具体的な対応方法等を市と共有すること。

市

○行政サービスの充実と効率化等

- ・本事業は、単に引きこもりという現象だけを問題としているのではなく、健康や心身機能、活動や参加の状況、環境など、様々問題を抱えた相談者を対象としていることから、生活困窮者自立相談支援事業等のノウハウを持つリンクが対応することは、行政サービスの充実化及び効率化につながっている。

○効果及び良かった点

- ・区長回覧や広報による周知を行ったことで、ひきこもりという社会現象に対する意識の醸成が市域に広く進んだ。
- ・相談機関を周知する効果があった。
- ・市民公開講座や相談会等を通じて、対象者の顔が少しずつ見えるようになった。

○問題点

- ・本事業を実施したことで、本市の生活困窮者自立相談支援事業の受注者であるリンクの相談件数が大幅に増加し、当該委託業務への支障が懸念される事態が一時的に発生した。既存事業である生活困窮者自立相談支援事業への影響を十分に考慮する必要がある。
- ・将来的に期待される家族会設置に向け、キーパーソンの発掘に関する現在の状況や今後の具体的な対応方法等を市と共有すること。

また、その協働による効果について、自己評価 (☑) をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市 (関係課)
<p> <input type="checkbox"/> 効果があった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。 (理由) ・1年目の主目的である地域課題の問題提起と事業の周知について、協働で実施できたことで幅広く住民の方々に届けることができた。 </p>	<p> <input type="checkbox"/> 効果があった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。 (理由) ・現状は、周知及び当事者等の状況把握の段階であり、事業における一定の効果はあった。 </p>